

.....
本会記事
.....

2023 年度春季大会に向けて

2023 年度春季大会は 6 月 6 日（火）～8 日（木）の 3 日間、早稲田大学国際会議場において開催します。講演特集として、(1) 各種粉末の焼結技術および焼結機構の新たな展開、(2) 磁性材料・磁気デバイスにおける微細構造制御と機能発現、(3) 粉末製造技術とその応用、(4) 各種外場環境下における動的現象の理解に向けて、(5) 電気伝導性材料の新展開—電池用材料からエレクトロセラミックスまで、(6) 光機能材料の新展開、(7) ナノスケール材料の作製技術と機能、(8) メカニカルアロイング関連技術による新規材料創製の 8 テーマで行います。詳細につきましては、<https://confit.atlas.jp/jspm2023s> をご覧ください。

早稲田大学での開催は 6 年ぶりです。2020 年の春季大会の開催を早稲田大学で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症がどのようなウイルスであるのかがまだまだ分からなかった時期でもあり、大会自体を中止することとなりました。そこから 3 年、オンラインでの大会を経て、ようやく対面での開催を再開できたのは昨年 2022 年の秋季大会です。当会は数年に 1 度は早稲田大学で開催をしておりまして、少し懐かしい気持ちとようやく本格的な対面開催と規制なしの懇親会を存分に味わって頂き、オンライン開催やハイブリッド開催とは違った、対面開催の良い点をもう一度見直せる機会となることを楽しみに開催したいと思っております。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

今大会開催の早稲田大学は、学生数が日本で第 2 位の大学です。キャンパスも広く、講演のない空き時間にキャンパス内を散策するのも現地開催の良さのひとつではないでしょうか。大学内には、坪内博士記念演劇博物館、會津八一記念博物館、早稲田大学歴史館（展示）、早稲田スポーツミュージアム、本庄早稲田の杜ミュージアム、国際文学館（村上春樹ライブラリー）、早稲田大学歴史館（東伏見アーカイブズ）、早稲田小劇場どらま館などのミュージアムがあります。文化人やスポーツ選手には早稲田大学出身者も多く、その業績は、キャンパス内のミュージアムで知ることもできます。ご興味のある方は、早稲田大学ホームページ早稲田文化（<https://www.waseda.jp/culture/contact/>）よりご確認ください。

○坪内博士記念演劇博物館（開館時間 9：30～17：00）（早稲田キャンパス）

アジアで唯一、演劇を専門的に扱う博物館です。建物の設計者は今井兼次で、16 世紀に存在したイギリスの劇場「フォーチュン座」を模して設計され、1987 年（昭和 62 年）には、新宿区有形文化財にも指定されています。

○早稲田大学国際文学館（村上春樹ライブラリー）（開館時間 9：30～17：00）（早稲田キャンパス）

早稲田大学 4 号館を隈研吾によってリノベーションし、2021 年（令和 3 年）10 月 1 日に開館した、地上 5 階、地下 1 階の建物です。村上春樹直筆の原稿や収集したレコードなどが保管されています。

○早稲田スポーツミュージアム（開館時間 10：00～17：00）（戸山キャンパス）

2019 年 3 月 20 日にオープンした早稲田スポーツミュージアムは、日本全体のスポーツの発展に寄与してきた早稲田スポーツの存在意義を改めて共有し、その比類なき個性を学内外へ広く発信するために、オープンされました。長い歴史を彩る栄光のシーンや象徴的なエピソード等を通じて、早稲田らしさと誇りを体感できるように、実際に競技で使用した貴重なユニフォーム等を展示し、写真や映像コンテンツも豊富に配置されています。体育各部（44 部）の資料を交替で展示するコーナーもあり、足を運ぶ度に新たな発見があるような工夫が随所に設けられています。

（吉田 泰子）